國學院大學学術情報リポジトリ

# 〔談話室〕首都圏のことばの地理的分布と動向を探る


| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-05<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 三井, はるみ, Mitsui, Harumi<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://doi.org/10.57529/00000659 |

# 首都圏のことばの地理的分布と動向を探る

三井はるみ

東京に方言はない、という意識が東京・首都圏出身者には強い。確かにかつて色濃く見られた江戸語の流れを継ぐ東京中心部のことばや、関東方言的な多摩地域のことばは話し手が減少し、一九八〇年代頃までに共通語化によって多くの特徴を失った。しかし日常生活のくだけた場面では、例えば「アチー（暑い）」「～ちゃった」「～じゃん」「でかい」など関東方言や周辺地域の方言に由来する特徴がまま聞かれる。近年ではこのようなくだけた、時に俗なスタイルの首都圏のことばが「くだけた共通語」「共通語の俗語」として全国の若年層の話しことばに影響を与えている。

実際のところ、東京・首都圏のことばの地域差の現状・動態はどのようになっているだろうか。それを把握するために、今回、Webによる地理的言語分布調査を試みた。その結果の一例を図一・図二に示す。

図は首都圏一〇〇エリア（南関東一都三県全域と北関東の主要市域を分割）でそのエリア内で生まれ育った人七九六名を対象に「キナイ（来ない）」という言い方をするか尋ねた結果である。調査は二〇一九年一二月にWeb調査会社に委託して実施した。あらかじめスクリーニング質問によって当該エリアで生まれ育った回答者を選び出し、該当者にWeb上で回答を求めた。現代では生育歴以外の個人差も大きいので、本調査では一エリア四名から回答を得た。

共通語および多くの方言で「来る」の否定形は「コナイ」（西日本ではコン等）だが、東京都心と神奈川県を除く関東地方では「キナイ」が広く用いられてきた。「キナイ」は一段活用の否定形への類推変化として生じたものとされる。今回の調査で「キナイ」の分布はどのように変化しているだろうか。

図一は六〇歳以上（平均六六・三歳、一九五三年生まれ）＝シニア層、図二は四〇、五〇歳代（平均四八・五歳、

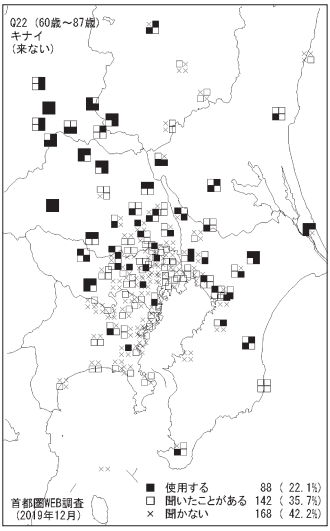


図1　キナイ（来ない）60歳～

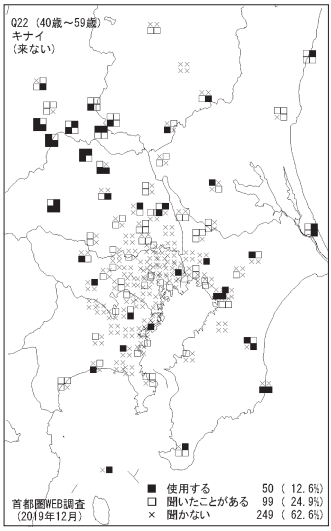


図2　キナイ（来ない）40～59歳

一九七一年生まれ）＝ミドル層の回答である。首都圏全域で見るといずれの年代でも「キナイ」は使われている。シニア層の「使用する」の分布域は、先行調査の明治から昭和の戦前生まれの話者の調査結果とほとんど変わらない。ただエリアの全員が「使用する」ことは少なく、「聞いたことがある」「聞かない」という回答も混在することから、使用機会が減少していると見られる。一方ミドル層になると「キナイ」を「使用する」地域は北と東つまり首都圏の外周部に退縮する。同時に「聞いたことがある」も減少して東京都と埼玉県南部では「聞かない」が大多数となり、「キナイ」は首都圏中央部から姿を消そうとしているように見える。

「キナイ」はこのまま衰退し続けるのだろうか。実はそれとは逆の方向をうかがわせる回答が見られる。先行調査では神奈川県には「キナイ」の使用が見られなかったが、今回の調査では少数ながら「使用する」という回答があった。関東地方で近年、衰退しかけた伝統的な地域方言が若年層を中心に再生して使われるようになった例として、推量・意志・勧誘の助動詞「～べ」がある。「キナイ」が今後新しい「共通語の俗語」として受容されていくかどうか、今回は調査対象としなかった若年層での使用状況を含めて注視していきたい。

本稿はJSPS科研費18H00673による成果の一部である。

（日本語学）